華やかな情事（1968）

PETULIA

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 アメリカ／イギリス
色彩 Color
時間 106分
初公開日 1968/12/01
公開情報 ＷＢ７

【解説】

監督レスター、音楽Ｊ・バリーで、観客はソフィスティケイトされたスノビズムを期待するわけだが、語られる内容が愚にもつかなければ、勿体ぶった構成や凝らされた映像の技巧は全て仇と化す。クリスティも作品次第で振幅が出てしまう演技派ぶりが悪く作用し、これは気の毒な役だ。富豪の親（コットン）の庇護のもと、生活力の薄い新婚の夫（チェンバレン）を刺激しようと外科医アーチー（スコット）に近づいたペチュリア（クリスティ）は、誠実で包容力のある彼に、火遊びのつもりが真剣になる。奔放でいて純な所もあるペチュリアに、妻と離婚協定中のアーチーものめり込むが、二人の関係を知った夫はペチュリアを殴りつけ瀕死の重傷を負わす。ところが、彼女にはこの夫の情熱こそが待望していたものだったーーという皮肉な話だが、演出が流麗すぎてワサビが効かず、加えて、ペチュリアがアーチーを見初める、メキシコ少年の事故と手術の回想の入り方も混乱していて、全く伝わってこない。ただ、アーチーの妻（Ｓ・ナイト）や息子たちとの交流ーーー緒にアルカトラズ刑務所で遊ぶよい場面があるーーは侘びしい情感がうまく出ている。アーチーがペチュリアの出産に担当医として立ち会うという月並みなエピローグにももう少し工夫が欲しかった。

【クレジット】

監督	リチャード・レスター	Richard Lester
製作	レイモンド・ワグナー	Raymond Wagner
原作	ジョン・ハース	
脚本	ローレンス・Ｂ・マーカス	Lawrence B. Marcus
撮影	ニコラス・ローグ	Nicolas Roeg
音楽	ジョン・バリー	John Barry
出演	ジョージ・Ｃ・スコット	George C. Scott
	ジュリー・クリスティ	Julie Christie
	リチャード・チェンバレン	Richard Chamberlain
	シャーリー・ナイト	Shirley Knight
	ジョセフ・コットン	Joseph Cotten
	リチャード・ダイサート	Richard Dysart

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.